



# 国際ロータリー 第2780地区 第9グループ 湯河原ロータリークラブ 週報



イマジン  
ロータリー

2023年1月6日(金) 第2903回例会 天候:晴れ

形式:対面・夜間例会(会場:ホテル城山)

会長 青木 義美 幹事 室伏 学

事務所:神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会

TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716 例会場:ニューウェルシティ湯河原 例会日:毎週金曜日 12:30~13:30

## 会長挨拶

青木 義美

皆さん明けましておめでとうございます。予定通り私の迷惑年賀状は1日に届きましたでしょうか。年齢と共に友人たちは年賀状をやめている方も多くなってきましたが、生死証明書だと思

って私は書いております。

さて、皆さんのお正月はどう過ごされましたか。サービス業の方は稼ぎ時でさぞ多忙だったでしょう。私の正月は基本的には飲んで食べているだけですが、恒例の行事が2つあります。一つはウイーンで開催されるウイーンフィルニューイヤーコンサートです。元旦19時(現地屋時間)からNHKで放映されました。もちろん行ったことはありませんが、切符はプレミア付で100万円以上するそうです。それもほぼ入手は不可能に近いそうです。コンサートの最後に演奏される「美しき青きドナウ」と「ラデッキーマーチ」くらいしかわかりませんが、正月らしい雰囲気楽しんでおります。

もう一つは「箱根駅伝」です。私は明治大学の卒業生ですが、正月イベントのスポーツで明治の強いのはラグビーとこの箱根駅伝ですが、ラグビーは正月を待たずに暮れに早稲田に負けてこの駅伝が最後の砦でした。見た方はご存じの通り、第1区は1位でしたが、最後は12位のシード落ちでした。ちなみに優勝した駒澤大学第4区走者は、泉出身の鈴木芽吹君でした。中継所で青学と中央大の3人でトップ争いをした学生ですが、来年は駒澤のエースになるでしょうから応援宜しくお願いします。

最後になりますが、今月27日(金)は例会がありませんが石川親睦委員長さんをお願いして、安江会員の結婚祝いを予定させて頂きました。後日詳細の連絡がいくと思いますが、是非大勢のご出席をお願い致します。

幹事報告・連絡事項・スマイル Box

なし

## 出席報告

会員	23 名	出席率	74.43 %
欠席	8 名	前回の修正出席率	85.71 %
(免除者)	2 名	前々回の修正出席率	75.00 %
ゲスト	0 名	事前メイクアップ	0 名
ビジター	0 名		

## 夜間例会(新年会)

今週の例会は夜間例会として、ホテル城山にて通常例会並びに新年会が開催されました。通常例会後の新年会の会場レイアウトは COVID-19 感染状況に配慮したものとしつつも、3年ぶりにビンゴ大会も企画されるなど、大いに盛り上がりました。夜間例会・新年会の開催に尽力された石田会員、親睦委員会の石川浩子会員並びに吉村会員におかれましては、大変お疲れ様でした。(文:会報委員会)

## RI 会長エレクトが 2023-24 年度会長テーマを発表

記事: Etelka Lehoczky



世界に希望を生み出そう

サウス・クイーンズフェリー・ロータリークラブ(スコットランド)の会員であるゴードン R. マッキナリー国際ロータリー会長エレクトは、1月9日、米国フロリダ州オーランドで開催中のロー

タリー国際協議会で講演し、2023-24 年度会長テーマ「世界に希望を生み出そう」を発表しました。この講演でマッキナリー氏は、問題を抱える国で平和を推進し、紛争の影響を受けている人びとを助け、過去のリーダーたちが始めたイニシアチブを引き継いでいくよう会員に呼びかけました。また、世界の注目を集め、現在の期待をはるかに超える可能性を切り開いていくことを求めました。

「私たちの目標は、破壊的な紛争から世界が立ち直れるように、希望を取り戻すことです。そうすれば、私たち自身のために持続可能な変化をもたらすことが可能となります」とマッキナリー氏は述べました。

また、タイで出会った一人の女性の話を紹介しました。そこでは、2004 年末に南アジアを襲った津波の後で、ロータリー会員が家屋や集会場、保育・医療施設の建設にあたっていました。津波で夫、娘、息子を失くし、生計手段も失ったというその女性は、マッキナリー氏にある物をプレゼントしました。それは、美しい貝殻でした。

「彼女は、ロータリーのおかげで前向きな気持ちを取り戻すことができたと話していました。私たちは彼女に希望を与えたのです」とマッキナリー氏。「これこそ、ロータリーが世界にもたらしている変化です。この変化が、一つずつ希望を取り戻し、新たな希望を生み出しています」

## 平和の推進

世界に希望を生み出す重要な方法となるのは、平和に重点的に取り組むことだとマッキナリー氏は述べ、過去 1 年間、ロシア軍による侵攻を受けたウクライナの人びとを支援するためにロータリー会員が行動してきたことに言及しました。ロータリーが人道的支援に力を入れたことで、ウクライナでのロータリー会員数は増えています。しかし、ウクライナだけでなく、イエメン、アフガニスタン、シリアをはじめ世界の多くの地域で平和が実現しない限り、本当の安らぎはないと指摘しました。

「平和とは、希望が根づくための土壌です」とマッキナリー氏。

継続の力についても強調し、過去のリーダーの取り組みを継続するよう会員に呼びかけました。自身も、シェカール・メータ 2020-21 年度会長が立ち上げた「女兒のエンパワメント」イニシアチブを継続し、ロータリー全体で多様性、公平さ、インクルージョンを強調し続けていくことを約束しました。また、ポリオ根絶への継続的な取り組みの重要性を物語る最近の一連の出来事にも触れました。過去 1 年間、世界各地でポリオ症例が再発しており、ロータリー会員がポリオ根絶活動をリードするこ

とが今まで以上に重要となっています。

このため、ロータリーが毎年 5,000 万ドル以上を集め、ビル & メリнда・ゲイツ財団からの 2 倍額の上乗せ資金を確保しなければならないとマッキナリー氏は話しました。現在、ポリオ根絶に寄付している会員は約 12 人に 1 人に過ぎず、毎年寄付しているクラブも 5 分の 1 を下回っています。

マッキナリー氏は、「ポリオのない世界」というロータリーのビジョンを実現するために、クラブの中に新たな緊急感を生み出すよう地区ガバナーエレクトの協力を求めました。「各年度に何をすべきかではなく、それを超えて考えるべき時が来ています。できるだけ早く実現するために必要なあらゆるリソースを、私たちが提供していかなければなりません」

## メンタルヘルスへの取り組み

マッキナリー氏はさらに、新型コロナウイルスの世界的流行によって深刻化しているメンタルヘルスの問題の影響を受けている人たちに、ロータリー会員が希望を与えるべきだと述べました。多くの人が家族を失い、社会的つながりを断たれ、特に若い人たちの教育や育成が妨げられています。その結果、世界でメンタルヘルスの問題に直面する人が増えています。しかし、助けを求めることは弱さの現れであると考えられることが少なくありません。

「真実から目をそむけることはできない」とマッキナリー氏。「助けを求めることは勇気ある行動です。健康と幸せにいたる道を求めることは、さらに勇気が要ることです」

次年度以降、ロータリーはメンタルヘルスサービスの改善に取り組んでいくとマッキナリー氏は続け、ロータリーは会員と奉仕を受ける人の両方を支える組織として知られるべきだと述べました。「メンタルヘルスの専門家なら誰もが口をそろえてこう言うでしょう。ほかの人を助けることで、本質的に自分自身が助けられるのだ、と」

講演の最後には、継続と革新の理想的なバランスについて述べました。「ロータリーは、平和、機会、生きる価値ある未来の土台を築いています。私たちが得意とすることを継続すると同時に、変化に対してオープンで前向きになり、世界と自分自身の中に平和を築くことに力を注げば、ロータリーはより平和で、より希望のある世界を築く手助けができます」

(2023/01/09 My Rotary 掲載記事)

(文・編集:石川浩子(1月会報担当)／クラブ会報委員会)